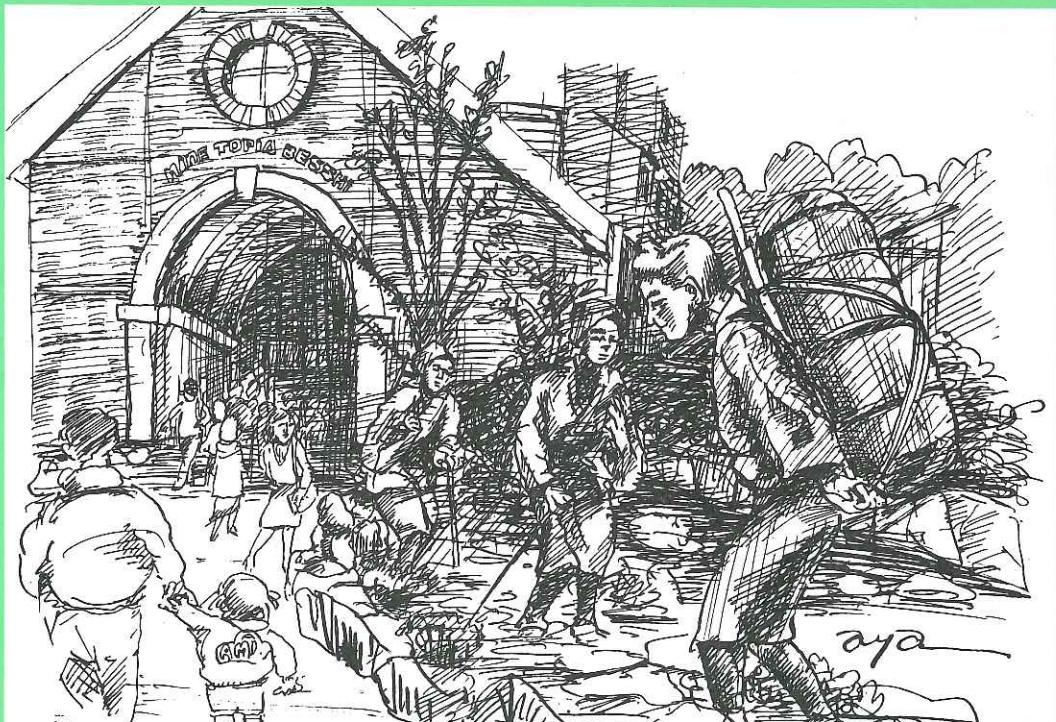


まちづくりネットワーキングえひめ

舞 たうん

VOL 27



柳原あや子さん(松山市)作 別子銅山鉱山跡

特 舞らしと環境 集

『水と緑から自然環境を考える』

- | | |
|------------------|------------|
| 自然豊かな清流を..... | 野村町 / 河野一男 |
| 鳥とともに春をうたおう..... | 松山市 / 井上正 |
| 21世紀の森づくり..... | 今治市 / 越智通寅 |
| 緑を育てる小さな力..... | 松山市 / 藤原政紀 |

特 暮らしと環境(集)

『水と緑から自然環境を考える』

自然豊かな清流を.....	野村町/河野一男.....	3
鳥とともに春をうたおう.....	松山市/井上正.....	5
21世紀の森づくり.....	今治市/越智寅通.....	7
緑を育てる小さな力.....	松山市/藤原政紀.....	9
ふれあい広場		
リレーでちょっとトーク(西条市・重信町から).....		11
元気印レポート.....		13
(むらおこし・水と緑とふれあいのむらからのたより)		
(元気・やる気・本気・根気そして一つの希望へ)		
研究会議		
91年次総会フォーラム.....		17
Information		
まちづくり研究サロン.....		21
TOWNタウン通信.....		22
研修レポ		
地域づくり交流研修(後編).....		23

今ほど環境問題について叫ばれて
いる時期はないのではないかと思われる。
新聞に目を通せば、必ず一つ
や二つは環境に関する記事が載つ
ており、本屋さんに行けば、環境
に関する本のコーナーがある。『92
地球環境年』の今年、環境の問題
は我々の生活においても非常に身
近な話題となっているようです。

地球規模的に見ると、湾岸戦争
による海洋汚染、フロンガスや窒
素酸化物によるオゾン層破壊、二
酸化炭素の増加による地球温暖化、
砂漠化など地球環境破壊の例は枚
挙げにいとまがない。そんな中で今
年六月にはブラジルのリオデジャ
ネイロで『環境と開発に関する国
連会議』(地球サミット)が開かれ、
「地球を守れ」と地球環境保護の
理念をうたった地球憲章が採択さ
れる予定であり、環境時代の幕開
けを告げるのである。

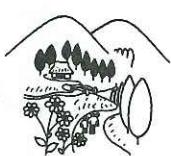
わたしたちのまわりでも、ゴミ
の減量化によるリサイクル社会の
形成やせつける問題など、環境問
題は住民の意識の中に深く浸透し
てあります。

そこで、「舞たうん」ではこうし
た身近でタイムリーな話題である
環境問題を取り上げ、三号にわたり
特集を組むことにしました。

『暮らしと環境』をテーマに、今
号では「水と緑から自然環境を考
える」と題して、四名の実践者に
登場願い、地球上にやさしく、自然
にやさしい環境づくりについて考
えてみることとしました。

以後「ゴミと雑排水から生活環
境を考える」「美観から社会環境
を考える」と題して特集を組む予
定であり、色々な面から環境につ
いて考えてみたいと思います。読
者の皆さんも身近なところから、
環境について考えていただければ
と思っております。

(編集子)



特集

水と緑から自然環境を考える

自然豊かな清流を

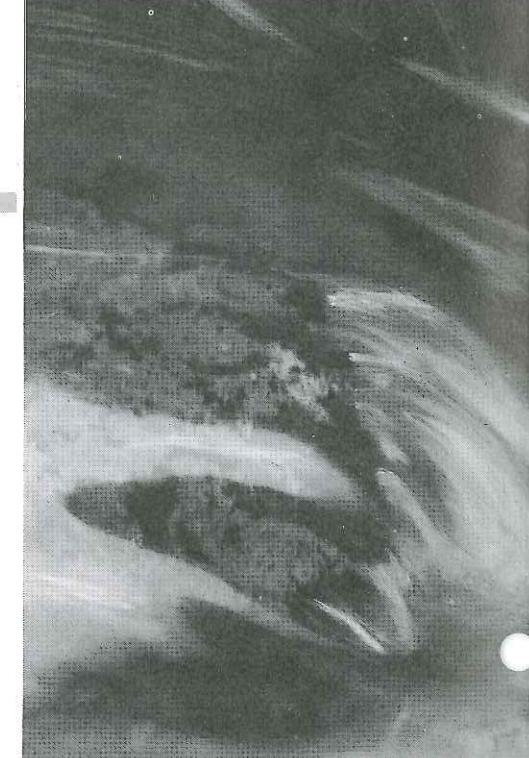


野村町立児童館

河野 一男

四国カルストに源を発する舟戸川は県内唯一のカワノリの生育地である。地域の人々の話によると、昔は食用にするほど多量に生育していたそうだが、上流のブナを中心とする原生林が大量に伐採された後、降雨時に川の濁りが目立つようになり、昭和四十年頃にはカワノリが見られなくなったとのことである。しかし昭和五十八年の私の調査で少量ではあるがその生育が確認できた。その後、高知・徳島の数ヶ所のカワノリ産地を調べた結果、どの

カワノリとの出会い



カワノリの産状

産地も清水性のカワゲラ・カゲロウ等多数の水生昆虫やアマゴのすむ山地溪流であり、後背地は広大な森林で覆われた生物学的水質階級I(きれい)の清冽な川であるということが分かった。このカワノリとの出会いにより私が自然環境と水生生物とのかかわりに関心を深めるきっかけとなつた。また、私は当時中学校で理科を指導していたので生徒達に自然体験をさせ、自然と人間とのかかわりを生態学的に考える素材として水生生物を取り上げ、その調査をクラブ活動の一つに取り入れることにした。

自然科学クラブでの調査活動

そこでクラブ員から数名の希望者を選び、町内河川の三十八ヶ所について昭和六十三年と平成二年の二回、水生生物の調査を行つた。

汚濁の進む川

調査結果について、環境との関係を考察する手掛りとなる河川の生物学的水質については、環境庁

「昭和六十三年度県生活文化研究発表大会」「平成二年度県指定自然環境を考える研究実践報告」等で発表し、水生生物の分布状況や

環境と生物との関係に人間がいか



(1)どの地点も二回の調査で大き

な差異はなく、流域の環境をよく反映している。

(2) 人家が川の近くに密集しているところでは水生昆虫の種類が少なく、耐汚濁性の生物が多く見られ、水質階級はⅡ（少し汚れている）である。特に肱川本流では川底の礫面に汚泥の付着が目立つ。

(3) 後背地に広い森林のある河川は水生昆虫の種類が多く、清水性のカワゲラ・カゲロウ等が棲み、水質階級Ⅰ（きれい）である。

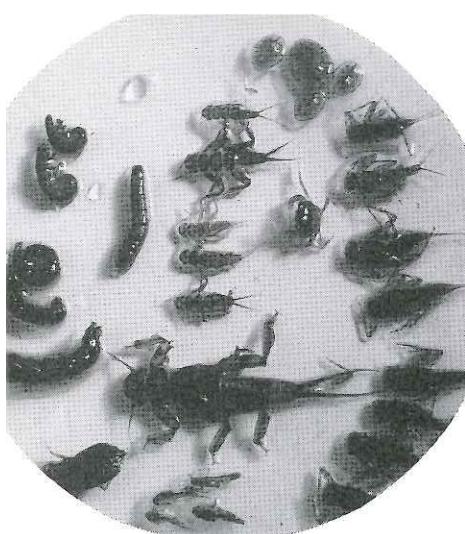
(4) カワノリは清流、しかも特定の水域にしか育たない藻類であり、天然記念物的存在であるが、

現状は絶滅寸前である。保水性の強い自然林の保護等の対策を要する。

(5) 野村地域の肱川は、ダムの建設・河川改修・アユ稚魚の放流による他地域からの雑魚の混入等で、生物の生息環境が著しく攪乱され、生態系に不安定な面がある。

(6) 三十年前および十年前に調査されたデータと比較すると、水生昆虫の種類や数が減少している。しかし耐汚濁性の種類は増加している。これらの事実は肱川の汚染が進行していることを示している。

自然豊かな清流を
私達の地域でも水質汚濁に対する関心が最近大変高くなり、特に子供の頃、川で遊び、川に親しんできた人々などから「何とかしなくては」という声をよく耳にする。行政等による啓発活動と相俟つて地域によっては自発的な河川浄化運動も展開されるようになってきた。人間にとつて真の豊かさが何



水生昆虫 カワゲラ・トビケラ etc カゲロウ

であるかを地域全体で考え合う機運の高まりを感じるこの頃である。「子供達に自然体験を」と言われるようになって久しい。「本来子供達は『太陽・水・緑』そして『泥』と『自然』の中で育つ環境が最もふさわしい」と言われている。私の勤めている児童館ではこのような観点から活動の一環として、「野草に親しむ会」「水辺で遊ぶ会」なども実施した。楽しそうに水遊びに興じる子供達を見るにつけでも、川での水泳や遊びを積極的に奨励出来ない現状を残念に思う。

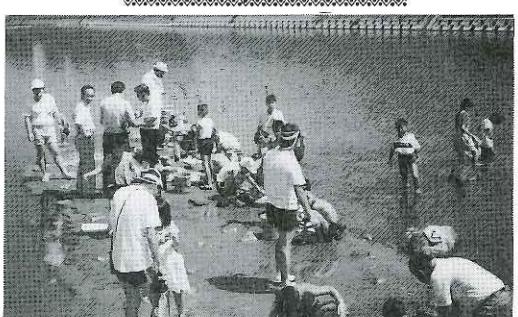
初夏の夜の風物であったホタルは、昔の光、今いざこの感である。「ホタルの里づくり」などと言つて、幼虫の養殖放流をしている所もあるようである。それによつて以後ホタルが養殖しなくとも自然に増えてくれば大いに意義のあることだ。私が調査した郷土の河川には餌になるカワニナが多くすんでいる。ホタルの幼虫も数は少ないが細々と生き続けている。何と言つても現状はホタルにとって棲

みにくい環境なのである。河川が浄化されればホタルは急増するであろう。養殖放流によるのではなく、自然増を目指すべきだと思う。

自然林の減少、農薬、生活排水河川改修等色々と困難な問題はあるが、私達の意識の高揚と共に流域全体の環境保全が計画的に進められなければならないと思う。

自然豊かな清流こそ、自然と人間活動の調和した心豊かな里づくりの表徴ではなかろうか。

水辺で遊びながら勉強しよう



生物の調査、飯盒炊飯、午後は魚とりと楽しい一日!!

鳥とともに春をうたおう

愛媛県森林林業課

井 上 正



県鳥 コマドリ

「むずかしいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを愉快に、愉快なことを真面目に」
井上ひさし氏のモットーである。

地球環境問題。人類が初めて直面したアポリア。とにかく問題が大きく、複雑で、考えれば考えるほど、深みにはまってしまう。

こんな時は、常に自分の身の丈まで、問題を引き下ろし、翻訳する作業が必要である。

そこで、環境のバロメーターといわれる野鳥を取り上げながら、環境問題を考えてみたい。

一般に、野鳥の種類が多いほど、豊かな自然環境が残っているといわれている。人間に農作物被害われる。試しに、自分の身の回りに何種類の野鳥が見られるかを調べて、環境評価をやってみるのもいいかもしれない。

かくいう私、現在の課に来るまでは、鳥といえば、スズメとカラスしか知らず、カラスにもハシブトガラスとハシボソガラスがいることも知らなかつた。最近、家の回りで見られる鳥はなんとか分かることは、なんとか分かるようになつてきた。

さて、環境問題であるが、私の家の近くで見られる鳥を紹介しながら、述べてみたい。

まず、一番目につく鳥は、なんといっても、スズメである。なんだスズメか、と馬鹿にするなけれ。このスズメでさえ、その生態はつかめていないのである。それに双眼鏡でじっくり眺めると、実に愛敬のあるしぐさをする。

彼らは人間とうまく共存してきたために、今日まで生きて来れたといつてよい。過疎で人が居なくなつたところには、スズメはいないのである。それだけに、人間との摩擦も多い。スズメは、害鳥といわれている。人間に農作物被害

を与えたり、人間から駆除されたり。

私も、ある県民から電話で苦情を一時間も聞かされたことがある。害鳥であるスズメなぞはこの世から抹殺してもよいとの極論である。しかし、私は、もともと自然界に生きている生物に不要なものはないと思っている。不要と考えるのは、人間の身勝手であり、生物は、生態系の中で、なんらかの役割を果たしている。

おもしろい話がある。一九五五年当時、中国で、四害追放運動が展開された。ネズミ、スズメ、ハエ、カの四種類を有害動物に指定し、徹底した駆除を行つた。スズメ捕り突撃隊が二四〇〇部隊も編成され、八万人もの青少年が参加した結果、捕獲羽数は一億羽にも達した。ところが、一九六〇年に四害追放運動の中からスズメが除外された。スズメを捕獲し過ぎたために、農作物の害虫が増加し



ツグミ



スズメ

てしまい、全国的な凶作に見舞われたのが原因だつたらしい。繁殖期のスズメは動物質の餌を食べるが、その大半が農作物の害虫で占められているのである。要するに、スズメも害虫駆除の役割を果たしているのである。それだけではない。スズメは、雑草も食べてくれるのである。

次に、目につくのはカラス。暗いイメージがある。その色と声のせいだろうか。しかし、実際に賢い鳥でもある。ミネルヴァのカラスと言つてもよい。

どこにでも姿を見せ、よく残飯をあさっている。彼らを繁殖させ、駆除せざるを得ない状況に至らしめているのは、人間が吐き出すゴミ、残飯が異常に多いせいもあり、私たちの暮らしのあり方に対して彼らなりの姿や声で警鐘を鳴らしているのかもしれない。

最近は、コサギもよく見かける

用による餌の減少に伴い、少なかつたのであるが。カラスのように

ようになつた。以前は、農薬の多用による餌の減少に伴い、少なかつたのであるが。カラスのように環境汚染による餌の減少の影響を

とともに受けてしまう。

ムクドリは、よく電線に列を成している。私は、二度も彼らの糞

を浴びていている。それもクリーニングしたての洋服に。しかし、野鳥を保護する仕事に就いているせいか、こうした糞害にも憤慨するこ

とはない。彼らもそのことを知つているのかも知れない。そのくらいのゆとりをもつて、野鳥と接し

たいものである。

そのほかに見られる鳥としては、ヒヨドリ、ツグミ、モズ、メジロ、キセキレイ、セグロセキセイ、ヒレンジャク。

約一〇種類程度の鳥をあげたが、

こんなのはどこにでも見られる鳥じやないかと軽視してはいけない。

とを一番忘れてはいるように思えてならない。

生かされていることへの感謝、

生かされていると思う謙虚さを失つた人間の傲慢さが現在の環境破壊を招いているのではないだろうか。人間も野鳥を眺めながら、机

に片手をついて、"はんせい"する時期にきてはいるのではないだろうか。

"土に根をおろし、風とともにいきよう、種とともに冬を越え、鳥とともに春をうたおう"

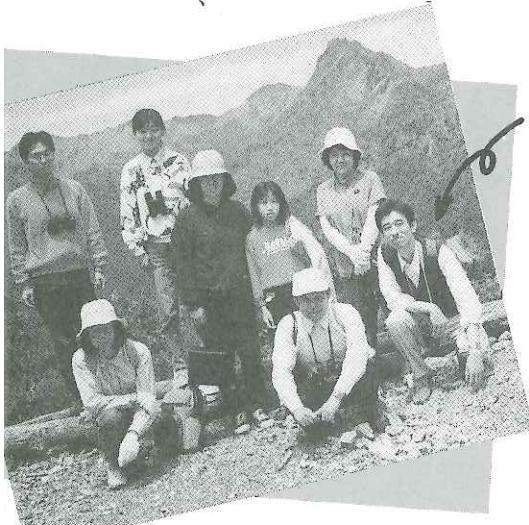
—天空の城ラピュタより—

井上さん



ヒヨドリ

含めて。人間も、ありふれた野鳥たちと同様、自然の恩恵を受けながら生きる生態系の中の一個の生き物に過ぎない。生態系の中で、他の生き物と同じように生かされているのである。現代人はそのこ



特集

水と緑から自然環境を考える

21世紀の森づくり

今治市・玉川町及び朝倉村

井有山組合 組合長
越智通宣

森林經營を取り巻く厳しい情勢下、如何にして二十一世紀に生き残れる近代的企業体にするかという現実の中で、その再生と保続をどのようにして成し遂げ、魅力ある森林經營体を作るかという課題があります。

はじめに

ところです。非皆伐複層林化を進めつつあるわが組合を、東京大学筒井名誉教授は「林政の原点」を見ることで評価され、「郷土への愛」が緑を育てるとして平成二年には朝日森林文化賞で全国唯一の優秀賞に推挙賜りその栄に浴することになりました。

とはいえ森林經營には、森林の果たす公共材としての使命である山林を治め、水を治め、そして水源涵養機能の保全をする一方、環境材としての役割である地球温暖化、砂漠化防止の諸機能、光合成による炭酸ガスを酸素にかえ、又人間に安らぎと潤いを与える等の公益的使命が重要であり、この森林を守りぬくために懸命の努力を続けてきた

これから森づくり



ヒノキ複層林

て頂ける住民のご支援の中で初めて為し得る事でもあります。従来の単なる林業という見地からだけでなく、広い意味での森林經營という理念を守り続ける事により、初めて国民的合意と理解を得なければならない事でもあります。



林野庁小澤長官直筆
の「水源の森」記念碑
の前にて

越智組合長

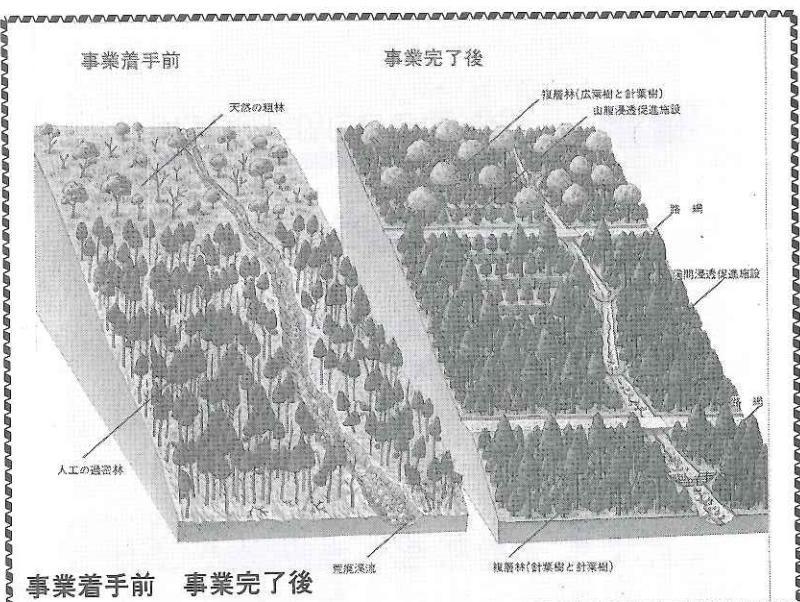
伐期の従来の経営方式で森づくりを考えてきました。ところが、田高・国際化・高賃金、そして、建築構造等社会環境の変化の中での外材攻勢下でわが国の森林経営は苦境に立たされています。

理化・機械化等省力化と銘柄产地化のための長伐期高付加価値材の生産体系確立、複層林化のための努力を続いている成果であります
が、これは公益的使命を理解していく國、県、市町村の援助と御
協力、そして森林の役割を理解して

一斉人工植栽することは根本的に森林の有機的生活を破壊するものであり、異齡林を作り森林の生態系に合った形での高価値大径材による蓄積により保続經營を成立させる事が森林のあるべき姿である」といわれました。

円にも充たないことを
見ても明白であります。

この事は、治山・治水・利水が古来政治の要諦とされて来たことと同様、郷土出身で國



として複層林化を叫びつづけて来られました。

われが今育林地においては、各地の育林体系と同じく、従来の皆伐後の一斉植林の後十五～二十年の

の十五年間で二百億円であったのに対し、森林材産出額は約四十億

この林業不況の中で本来の森林の姿、すなわち組合創設の目的に合致した治山・治水・利水の森づくり

共有山組合は今や百年の歴史を有する当地方の森林經營の中核をなす公有林組合であります。そして、重ね、花崗岩風化マサ土地域である

蓄え、時間をかけて徐々に川に送り出すため、木の根が山肌をとらえ土砂の流出を抑えます。又、雨をきれいな水に浄化し、ダムに流れ込む土砂を軽減するなど自然環境に対しても大きなメリットがあります。

複層林とは：

複層林は大木の下に小木が段階を追つて育つように整備した森林で、大きな木を伐採しても林地が裸地化することがないなど、水土保全機能のより高い森林です。

雨をスポンジのように吸収して蓄え、時間をかけて徐々に川に送り出すため、木の根が山肌をとら

上を整備し、近い将来最低百年択伐法正林化を目指して努力を続けているのであります。

それを支える地域林業の大団結による大規模化、銘柄产地化のメソッドを生かした林業の活性化を図ることが重要であり、林業関係者は勿論、森林組合の大団結とそれを指導する国県市町村の協力の中で近代的な構造改革をなすことが大切であります。

り機械化貧乏にならないような近代機械の開発導入等々の早急な対策と共に、効果的な国県市町村の適切な指導協力が必要であります。然し、単に先進地の例に頼るのみでなく、わが今治地方の気候、風土、土質にあつた森林づくりを先人の育てて來た山の木に聞きながら、この地方に適合した森林整備を的確に進めて行かねばならないものであることを痛感する次第であります。

将来の課題

今治地方では、如何にして公有林を中心に大型ロット化を図り、

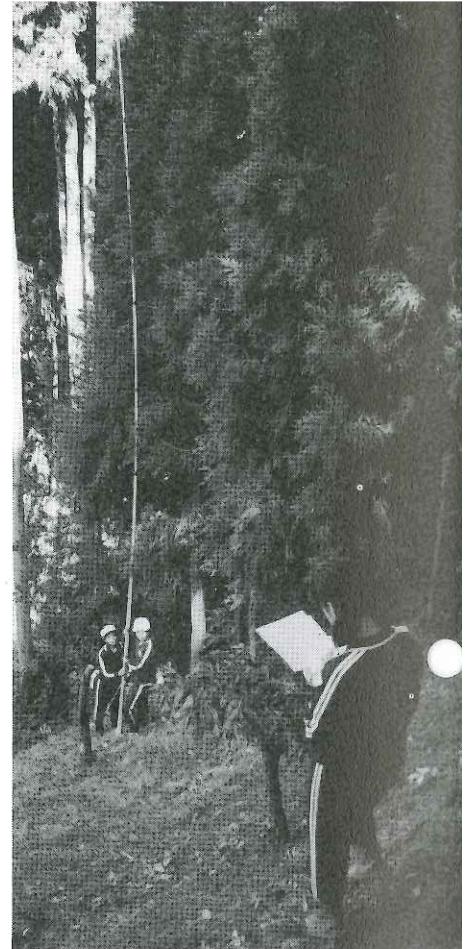
特集

木と緑から自然環境を考える

緑を育てる小さな力

松山市立日浦中学校教諭

藤原政紀



おいしい水を飲んでいますか。旅先で、レストランや喫茶店に入り、出されたお冷やに口をつけた瞬間、みけんにしわを寄せた経験はありませんか。水道の蛇口をひねれば出てくる水がありながら、スーパーなどでわざわざミネラルウォーターが販売されているのも分かるような気がします。

「日浦緑の少年団」は、松山市生徒が二十五名の中学校、そんな学校があつたのかと初めて知った方も多いでしよう。蛇口をひねれば出てくる水、その松山市民の水がめ「石手川ダム」から車で約十

分の河中町にある、緑に囲まれた小さな学校です。校舎の裏では、石手川の源流がここちよいせせらぎを響かせ、生徒は穏やかな学校生活を送っています。そんな中で、我が「日浦緑の少年団」は、緑とふれあい、緑を守り育てようと活動しています。

春

桜の季節がやつてくると、一年生の入団式、入団記念の炭焼きが行われます。雑木と

して運動場の片隅で眠っていた木が、一年生の団員の手で炭に生まれ変わるのであります。炭窯から新しい

炭を出す作業を終えた一年生の顔は、すすや炭で真っ黒になります。

「窯の中に入つて木を並べた。並べ方にもちやんとしたものがあつて、勉強になつた。」とか「窯の中はむし暑く、真っ黒になつてしまつたが、楽しかつた。」というような感想が聞かれました。

夏

蟻が飛ぶ季節です。団員たちは、たくさんの蟻が乱舞することを願いつつ、松山市公園緑地課から毎年いただく蟻の幼虫を川に放流します。ゴミと間

違えそうなくらいの小さな命との出会いです。

また、蟻とは反対に、減つて欲しいと願いつつの空き缶拾いも夏に行われます。国道には、バイクで暴走する若者が増え、それともに、散乱する空き缶やゴミも見える季節だからです。松山市の水源であることを知つてからです。国道沿いの石手川にもたくさんのがみが投げられ、ダムに浮かびます。団員は徒步と自転車の班に分かれ、国道沿いを汗をかきながら進めます。

「田舎だから、人が来るのはうれしいが、ゴミを道端に捨てるのに腹が立つ。」と愚痴をこぼす団員もいれば、「ジュースの空き缶や弁当箱などがたくさん落ちていました。きれいにするためにみんなで働けたのでよかったです。」と感想を書いた団員もいました。

空き缶拾いが終わると、一年間で最も大変な作業である、山の下草刈りが待っています。夏は、総面積一・二ヘクタールの少年団の山に、草が生い茂る季節でもある



のです。毒蛇や蜂に気をつけながら、自分の身長よりも高い草と闘います。

ありがたいことは、保護者や地域の方々が熱心に協力してくれます。汗でびっしょりになりながら、約二千本のくぬぎ、百五十本の杉の成長を願い、作業は進みます。

「暑かったのでやけくそになつてやつた。」とか「草を刈つていくうちに、なんで暑い時期にこんなことしなければならないんだろう」と汗をかきながら思うようになつた。」というのも団員の本音の一部です。

山間地にある日浦地区には、あきあかねが一足早く飛び始めます。少年団の大きな活動はなく、一息つける季節ですが、運動会、新人戦、文化祭と学校は大忙しです。しかし、校地内にある螢小屋では、螢の幼虫がひとつそりと育っています。夏休みも

全員が交代で世話を続け、小さな命を育てているのです。灌水を続けた菊もきれいな花を咲かせます。

冬

雪が舞い始め、少年団の山に植林された杉の樹高測定が行われます。

六品種の杉について、高さと幹の太さを測定し、日浦地区に最も適した杉を見つけるために始めたこの品種別成長試験は、今年で十年目を迎えました。

七月と十二月の年二回の測定で、年内での成長度の比較も行います。今年の文化祭では、十年間のデータを分析した考察結果が発表されました。また、これとは別に、二段造林品種別成長試験も継続されており、北風の吹く中で、ノギスや樹高測定器を使っての作業が



藤原先生

行われます。

「木が大きい上に、測定器がかかったので大変でした。」というの

は、一年生の団員の感想です。

春の足音が聞こえるようになると、三年生の団員は、緑の少年団を退団し、卒業していきます。退

団記念の炭焼きが行われ、二度と体験することはないかもしれません。焼いた炭は、近くの料理店や口コミで知った方が買って下さり、収益金を活動費などにあてています。

このように、団員たちは自然に恵まれた環境を生かし、四季を通して体験的な活動を行っています。目に見えるような大きな成果があるわけではありません。けれど団員たちは、コップの水を口にし、みけんにしづが寄つたとき、自分の育つた環境に感謝し、緑の少年団の目的を思い出すことでしよう。

また、減っていく螢、川やダムに浮かぶ空き缶・ゴミなどから、何かに気づいてくれるでしょう。学習や部活動とのジレンマの中で、全員参加による緑豊かな郷土づくりをを目指して、小さな活動を続けているこの頃です。



リレーでちょっとトーク

子供たちに愛と勇気を

西条市 三島 崇敬

当時、三歳になる長男とともに加茂川べりに散歩に出掛け、カニの大群にはしゃいだり、アジサシの卵を見つけ、わくわくしながらしばらくその卵を見に通つたものでした。カブトムシのあの独特の臭いが立ちこめる神社の雑木林で、番を見付け大喜びしたのは、息子より私の方でした。また、周知の通り、西条の水は素晴らしい、十メートルから二十メートルも掘れば、水が湧き上がります。

日々涸れることなく自噴しているのです。こうした自然の豊かさに触れながらこの西条に住んで七年が経ちました。

ることはできません。見た目が美化ではなく、地球環境が取り沙汰されている今日、本当に自然と共存するまちづくりを願つてやみません。



た。映画を見るのは何年かぶり。とても素晴らしい映画で、西条の子供たちにも是非見る機会を与えることが出来ればと思い、各方面の方々と協力して上映することができました。五年前のことです。

以後、サークルを結成するまで、何回か実行委員会を作り映画を上映しました。そして、平成二年十月に、関心のある母親たちが中心になり「西条親子文化サークル」を結成することができます。

昨年は、一度の映画上映に終わり、例会だけになりました。今年は、映画会に留まらず、何か他のことが出来ないかと現在思案中です。

親と子が共に参加して、感動を共にできる機会がもてればと

いう思いで取り組んできましたが、当初は思うようには受け入れられずジレンマを感じました。「がき大

将行進曲」「先生の通信簿」「サラ

フィナの声」「潤の街」の他に「長

靴下のピッピ」「魔女の宅急便」等上映してきました。日常的には、雑談から始まる教育問題を考え言」の学習会などもしています。

また、このサークルのことをもつと知つてもらい、一人でも多くの人が何らかの形で参加してもらえて、月に一度サークル便りを出しています。然し乍ら、少人数の上、財政的基盤もなく、また、会員のお母さん方は、仕事を持つ身。継続的に行うのは仲々大変です。

今年は、西条にも立派な文化会館ができるという話です。そうしたところで、私たちも子供たちのために何か役にたてる活動ができればと願つております。

次回は、東予市の川原光明さんにお願いします。

そんなことを感じ始めた折、隣の新居浜市で「風が吹くとき」という映画を見る機会がありまし

リレーでちょっとトーク

近年、まちづくりの一環として、各所が整備されています。アジサシの卵を子供と見付けた川縁付近も、今は、コスモスの花等が植えられ、美しくなりました。然しその後、アジサシの卵を見付け

遊びを作り出せない子供たちが多いのも現実のようです。

そんなことを感じ始めた折、隣

の新居浜市で「風が吹くとき」と

いう映画を見る機会がありまし

リレーでちょっとトーク

リレーでちょっとトーク

論より証拠

重信町 牧 秀宣



と答えが返ってきたそうです。

最近「うまい米は売れる」とか

「安全な食糧」とかいう言葉をよく耳にするなあ。」(マスコミの中での農業を見る視点の問題ではあろうが)いつも疑問に思うのが何を基準に……と考える。

本当にそう思うのだつたら減反

で土地は余っているし、山は荒れて草ボウボウ。自分で作ればいくらでも作れるのに。まして、自然の中汗を流せば健康にもいい。

週休2日制の使い方で討論番組が出来る時代なのに……まあそれは別の様だが、何ともつかみ所のない話が聞こえる。

十年前になるが、食べれないけど大きななかぼやを作った時の話。近所のじいさまが「わかいし、ありやんぞ。すいかでもないし、かぼちゃにしては大きすぎるし」と声を掛けられた。「これは見えるもんか?」と聞かれて、「これは

かぼちやよ。食えんことはないけ

ど、うまいもんじやないそじや。牛の餌とかにするらしいよ」と言

うと、「ほうかや。かぼちやかや。ほじやけど、戦争中じやつたら、

おまい、あれだけおおけなもんじやつたら表彰もんぞよ、昔はなん

でも大けかつたらはめてくれたもんじやけどのう」「今は、食えん

様なもん作つとつたんじや、いかんがのう」(長い間百姓をやって

いた人がびっくりしたのも又、ヒントになつて良いものです。)

又、知り合いの郵便局にかぼちやを持つて行つたら、「切手売るよりも大変迷惑をかけた様です。

しかし、その中に「このかぼちや、戦争中か終戦直後に食べた事がありますよ」と言う方がおられて、

「味の方は?」と聞くと、「その當時はおいしかったと思ひます」

今のように物が余る時代じゃなか

ったからでしあうが、色々な時代をこのカボチャも生きて来たので

しょ。味も時代によって變つたんでしあうね。同じ味の物を毎日

食べる時、どんな御馳走も、うまなくなるものです。時、場所、気分によつて味は變るもので。今の

時代は、氣分で變る時代かあ。

私の作つている米、これは約十

年も前から、麦は二千年前から食べられているものですが、味に飽きたと言う話はあまり聞きませ

ん。種類や料理法によつて飽きたり飽きなかつたりするのですが手の加え方で變るのも又、味のおもしろさ。

目や耳に訴えない理解されないと思つてしまつ。しかし、触れないと解らないのが味の様な気がします。うまい物がないという現

代ですが、実は触れる機会が少ないのが現代じやないでしょ。か。何事につけても言える様な気がします。農業などは特に、触れ合う事から遠ざかった分野の様な気がし

ます。目や耳や口だけで知つたり感じたりの農業、農業論では味を理解してもらうにはちょっと難しい気がします。四季が變る様に、味覚も變つていないと……。

とにかく、十人十色、様々な食べ物の中から自分にあう食べ物を選べる時代を作つたのですから、味を選べる舌を持つ事が大切ですね。国際社会になったのですから、そろそろ、味覚も自分で判断できないと……。自分のアレンジで、農業にもアレンジがいる時代です。

私は今から米と麦を沢山作つて、一人でも多く見て、触つて、食べてもらえる人が増えていく様に今この仕事を続けたいと思います。

『論より証拠』 いくらおいしい

と言つても物がなければ味わつてもらえません。私の様な生産者は作らなければなりません。味わう方には、食べてもらわないといけません。その前にまず食べてもらえるチャンスを作つて行く事が大事なのかもしれません。

次回は、愛媛大学農学部の白石雅也助教授にお願いします。

元

氣

印

レ

ホ

一

ト

むらおこし

—水と緑とふれあいのむらおこしのたよーー

柳谷村商工会むらおこし担当

酒井忠敬

柳谷村の概要

戦国時代は道後湯月城主、河野屋形総領の貴高地として支配をうけた。豊臣秀吉の四国征伐後、小早川隆景、続いて福島正則、そして三年にして加藤嘉明の所領となる。その後藩政時代松山藩に属し、町制施行に伴い柳谷村となつた。

柳谷村は、愛媛県の中南部、上浮穴郡の最南端、高知県境に位置し四国山脈の山々に抱かれた山間地帯です。仁淀川とその支流である黒川が村の中央を南北に貫流して、これに合流。急流と豊かな水量は電源開発の源をなしている。主要産業は林業、畜産で、近年、四国カルスト、八釜渓谷の観光資源を活かした観光産業の振興に力を注いでいる。人口は一八〇〇人の過疎の村でもあります。



むらおこしの仕掛け

このような状況下にあって、今後の柳谷村の活性化は如何すればよいか、大変悩んでいた訳です。

丁度昭和五十九年度に国の施策として「むらおこし事業」の制度化が図られ、すぐに飛びついた訳です。

初めての事業で方向性の見えないものでしたが、良きメンバーエにも恵まれスタート台に立つ事が出来ました。まず最初に、むらおこしについて意識啓発を図ることが必要であろうと思い、地区別懇談会をもち毎晩のようにかけずりまわりました。

又、ポスターの掲示、パネル板の掲出、パンフレットの全戸配布など住民意識の啓発に努めたわけです。特に文化祭での青年団によるむらおこし事業の全国事例発表会では、その効果が現れました。一年間をふり返ってみると新たな小規模事業者の事業の創出を図るための特産品開発にあたり、村内外の専門家による試作研究には相当な熱意と労を要しました。

たが、十二品目にものぼる特産品の完成をみることが出来た事はこの仕掛けの成果の現れであり、成果

発表大会には多くの感銘を与えました。特に住民からの盛り上がり

があり、過疎地を生かすやる気のむらづくりが出来たものと思います。

販路開拓の仕掛け

このようなむらおこしのための特産品開発の成果をふまえ、昭和六十二年度事業において国の指定を受け、地区内小規模企業の振興、ひいては地域経済の活性化を図る観点から、特産品等の販路開拓を図ることを目的に販路開拓支援事業に取り組む事になつた訳です。

原材料を確保しながら、流通業者、消費者等への特産品のPRのため、全国をかけずりまわり、研修会・展示即売会を開催して、柳谷ブランドの販路開拓の普及及び指針としたわけです。その結果、「ワサビの三杯酢漬」「山ごぼうのみそ漬」が全国推奨観光土産品として選定され定着をしたわけで

地域産業活性化振興支援事業を実施。更に平成三年度においては地域資源等活用型起業化事業を実施。



その成果として、組合員の相互扶助の精神にもとづき特產品の共同販売、共同加工を目的として、県下第一号の「柳谷高原物産協同組合」（組合員二十四名、出資金八十六万円）が平成三年九月三十日に設立されました。今後はこの組合を母体として、加工施設の設置、販売拠点作りを行い、若者の定住、老人・女性の参画によるむらおこしの活動を仕掛けてみたいと思っております。むらおこしは終わりのない奥の深いものであろうと思ひます。第一段階として、十年を目標にむらおこしを仕掛できましたが、仕上げの段階に入つてきました。

このように販路開拓の最終目標は、起業化を図り、むらの活性化につなげていく事であります。

そのためには、代表的な産業おこしの芽を本格的に事業化する必要があります。そこで平成二年においては地区内小規模事業者が中心となって行う地域資源等を活用し起業化のための商品開発・デザイン開発・市場開拓等の

た。

今後も更に新しい気持ちでむら

おこしを仕掛け、柳谷村の活性化に役立てればこのうえもない喜びです。県下の同志に、「水と緑とふれあいのむら」からのつたない事例報告とし、今後共色々とご指導をお願いしながら筆をおきます。

その成果として、組合員の相互扶助の精神にもとづき特產品の共同

販売、共同加工を目的として、県下第一号の「柳谷高原物産協同組合」（組合員二十四名、出資金八十六万円）が平成三年九月三十日に設立されました。今後はこの組合を母体として、加工施設の設置、販売拠点作りを行い、若者の定住、老人・女性の参画によるむらおこしの活動を仕掛けみたいと思っております。むらおこしは終わりのない奥の深いものであろうと思ひます。第一段階として、十年を目標にむらおこしを仕掛けできましたが、仕上げの段階に入つてきました。

このように販路開拓の最終目標は、起業化を図り、むらの活性化につなげていく事であります。

そのためには、代表的な産業おこしの芽を本格的に事業化する事が必要であります。そこで平成二年においては地区内小規模事業者が中心となって行う地域資源等を活用し起業化のための商品開発・デザイン開発・市場開拓等の

た。

今後も更に新しい気持ちでむら

おこしを仕掛け、柳谷村の活性化に役立てればこのうえもない喜びです。県下の同志に、「水と緑とふれあいのむら」からのつたない事例報告とし、今後共色々とご指導をお願いしながら筆をおきます。

特産品注文承ります

柳谷高原物産協同組合

TEL ○八九二一五一四一七一九



腐の梅漬、山菜佃煮、あまごの
カンロ煮、あまごのくんせい、
しそのみしぐれ、コンニャク、山
彩せんべい、リシゴせんべい、
山ごぼうのみそ漬、生わさび、
冷凍あまご、乾しげたけ、合格
破魔矢、合格切符、木工品、高
原豆腐

◎柳谷イベント紹介

○フェスティバル in 四国力

ルスト（七月末）

○柳谷商工まつり大会（9月末）

○柳谷林業まつり（10月中旬）

○中津かるさとまつり（10月下旬）

是非おこし下さい。

◎柳谷村特産品紹介

わさび漬、ウドのみそ漬、豆

腐の梅漬、山菜佃煮、あまごの
カンロ煮、あまごのくんせい、
しそのみしぐれ、コンニャク、山
彩せんべい、リシゴせんべい、
山ごぼうのみそ漬、生わさび、
冷凍あまご、乾しげたけ、合格
破魔矢、合格切符、木工品、高
原豆腐



—元気・やる気 本気・根気

そして一つの希望へ—

日吉村「一希を起こす会」藩主
那須 史憲

◆ すでにいううちに

日吉村に住んでいてよく聞く言葉ベスト3。「山(林業)はいけん」「百姓はいけん」「日吉はいけん」。次点「若い者が少ないけん」。すべて嘆き、ほやきのいけん節。前向きな言葉はなかなか聞くことができません。

農林業が厳しいのも若い者がないのも日吉村だけではなく、全国の農山漁村が抱えている問題です。嘆いてばやいてよくなるものなら私は、眠ることなく嘆きほやきます。これが私の嘆きです。日吉はまだ良い方。立派な国道が二本通り、松山へも高知へも二時間、人口もピーク時の半分くらいまでしか減っていない、成人式も毎年行われています。

そして、春には新緑、夏は適当に暑く、秋には目にも鮮やかな紅葉、冬には雪が降り、四季の変化を楽しめる豊かな自然があります。まだまだ日吉村もすてたもんじやない、すてたもんじやないうちに、

若い者で何かしなくちゃならないなどと考えているところに、若者塾ができました。その名は、「一希

を起こす会」です。モットーは、「やる気と元気を出して、本気で

一つの希望をもつて根気よく活動しよう」というものです。一つの希望とは住んでよかった、住んでみたい村、元気な村です。

私はよく林業の関係で、久万町へ行くことがあります。その時いつも感心するのは、老若男女を問わず山の話をする時目が輝いているのです。そして嘆き節など言わず、前向きな言葉が出てくるのです。地域づくりの原点はこれではないかと思います。

◆ みんな輝け

今私たちが日吉村ですべき事はまず、年輩者の目を醒ますことはないかと考えています。そのためにはお年寄りがよく言う「昔はよかつた」「昔はこんなことがあつておもしろかった」などという伝統行事や文化を復活、伝承することだと思います。そんな中で

私たち、神楽を受継いでいることをから始めました。保存会はありましたが、会員が高齢であるため、風前の灯火という状況でした。しかし、私たちが伝承していく



◆ 地域づくりの原点

住みよい、住みたい、元気な村、これは若者たちだけの感性。他力ができるものではないと思います。

そこに住む人たち全てが輝いてこなければ、村も輝いてこないと思います。そのためには必要なものができます。その名は、「一希」第一番は「心」だと思います。自分たちの村は自分たちの力で良くするという心です。

うという事になつて、目の輝きが確実に変わりました。その目を見て仲間が「那須さん、これが村おこしやな」と言つたことがあります。同感です。



20数年ぶり神楽奉納（三嶋神社）

◆ 意識改革とバランス感覚
次に私たちがすべきこと、それは創造といいものは残していくこと、この二つの調和を図つていいことだと思います。お年寄りが「昔は……」とよく言うように、

「いいものはいい、守るべきは守る」という意識の改革とバランス感覚を持つことが必要ではないかと思います。

今の子供たちが大きくなつた時、「日吉村のどこそこであんな事をした、おっちゃん達があんな事をした」と言われるような物を残すことです。それは今ある豊かな自然と景観を守り、それにマッチした物を作ることです。どんなに便利になつても、豊かになつてもそれが生活に不安を与えた、悔いを残すようなものであつてはならないと思います。

今から三十年前、日吉の節安地区という所にすばらしい原生林がありました。そのほとんどが国有林で、今は伐採されて杉、桧となつています。最近になって「あれを残していくなら」という言葉をちょくちょく耳にします。その頃は時代が時代でしかたなかつたのでしょうか。しかし、今からはしてはならない事だと思います。



クリスマス会



森のペンキ屋さん

◆ 誇りをもつて
そして、私たちは自分たちの地域や産業を否定することを決して言つたり、したりしてはならないと思います。地域を次世代、次々世代へと受継いで欲しいと思うならば。しかし、私たちの先代を見ていると、それを平気で言つたり、したりしている者を多く見受けます。自分たちが誇りを持てないものを、次の子供たちに持てと言つうのが無理なのではないでしょうか。

小椋佳の詩に「子供らの明日は未来で、私たちの明日はただの次の日で」という一節があります。私たちの明日もまだまだ未来です。嘆きやぼやき、地域の否定はせず、前向きに進みたいと思います。そして子供たちにすばらしい未来を残したいと思います。

そのため常に向上心を忘れず自己の変革に努めたいと思います。そして、四つの氣を出して、一つの希望をかなえたらと思つています。

「えひめ地域づくり研究会議・91年次総会フォーラム」

—今、あらためて過疎を考える—

(財)愛媛県まちづくり総合センター

研究員 山岡 強

■プロローグ

この集会は、去る平成三年十一月三十日～十二月一日にかけての二日間、「えひめ地域づくり研究会議」年一回の総会として、喜多郡内子町「うちこスポーツイン」を会場に開催されました。

総会とは言つても、研究会議ならではの「らしくない総会」を前提にしたセッティングはこれまでと同様ではあるが、今回の総会が今までと違うところは、研究会議会員による研究活動の報告を取り入れたことである。

「研究会議とは、こうあるべきだ!」という新しい方向性を見出そうとした今回の研究テーマは、「過疎とは何か?」ということを一般論としてではなく、愛媛の個々の事例を見ながら独自の研究と討論を深め、それにより新しい

地域づくりの方向性及び地域社会が持つ本質的役割や意義を、一度考えるため、地域づくりの原点を探る意味で、「今、あらためて過疎を考える」と置かれた。

研究活動は研究会議会員等により、東・中・南予の三ブロック計五市町村で行なわれ、過疎問題におけるそれぞれの地域特性や問題・課題が研究されたが、さて、それはどのような内容の報告となつたのだろうか?。

■基調講演から



〈基調講演〉 乗本 吉郎先生

町・村の過疎につながっているのだが、そこで起つてくるのが農（経済・生産）の危機である。

道路、通信の整備によって、都市の資本や低俗な文化により、農村固有の資本が支配され踏みつぶされてゆくのである。おまけに、

てはいけないのである。

日本は今、世界一の輸入国になつているが、その影響で衣食住がすべてにおいて変わってきた。特に食文化についてはこの十五年の間に随分と変わり、女性の糖尿病が急激に増えたのも一つの現象である。これらは、海外からわけのわからぬ食物の輸入品が激増しはじめてからの現象だが、皆は、健康を維持するための食事が、実は死と隣り合わせになつてゐる事に気が付いていない。

これからは、環境はどうあるべきか、生きるという事はどういうことなのかということを考え直さなくてはならない。活性化というのは、皆が生き生きと生活できる事をいうのである。心の支えのなくなつてゐる今の時代は、自分が都市の産業廃棄物は過疎地で処理され、情報も全て操作されている。都市にだまされてはいけない。こうした現状の中で、路墾政策とは一体何だったのかという事を疑つてみなくてはならない。この近代化の中では農山村は、国際化・自由化・情報化という言葉に化かれ

いただいた。

「今、家庭、家族が恐ろしい勢いで解体、崩壊している。それが、

結局、今の時代はハードに走り

「えひめ地域づくり研究会議・91年次総会フォーラム」

況も増えてきている。その他人口が増加しない理由に、転勤してきても銀行・娯楽施設・スーパーが少なく、学校が遠いという理由で同町に住まないという事実もある。

そんな中で今年七月、住みよい、若者が定住できる地域づくりを目指した『地域づくり推進協議会』が発足し、「自分の地域を最も住みよい地域にするためには今後何をするべきか?」というテーマの下に各地域で会合を重ねている。又、町民の海外研修派遣にも取り組んでおり、国際感覚を身に付けて広い視野でのまちづくりへの参加を期待している。そして最近では、自分達の町の特色を生かしたイベントを企画する若者達が出てきたり、半年間に十二組の結婚式が予定されている地域があつたりして、これらのが企業誘致に少なからずとも起因があつたとすれば大きな成果であったと思う。

地域経済と過疎地域の課題

内海村・一本松町から見る

【内海村の概要と現状から…】

内海村は真珠母貝養殖主体の村で所得水準はかなり高く、自然の恩恵を受け高度経済成長に助けられた村である。昭和五十年に人口二千四百人の最低を数えてから平成三年までの十五年間に約三百人の増加があり、県内では二番目の増加率である。近年においては、後継者の増加やヒターンをする若者が増加しているのが特徴である。

【今後の課題と対策は…】

労働力を確保するために結婚して、人口が増加しているように見られがちである。一方、真珠の過剰生産が問題で、海の生態を狂わしているため今後は一次産業依存の産業構造を脱去し、内海村の自然をフルに活かした産業を起こす事も大切である。そこで村では、海洋資源開発センターの建設に着手し、間もなく完成の予定である。それに色んなデータを研究し、あらゆる自然環境に対応できる産物の生産

を目指している。そして、これらの人材を確保することが地域・自然を守り、やがては活性化につながるのだろうと思う。今の内海村にはソフト面が欠けているが、現在、人材育成中である。

◇第二分科会

『過疎から過密へ

【実の暮らしを求めて】

ちらりん農園（丹原町）

【丹原町の概要と現状から…】

【過疎の生活から…】

のである。



第2分科会右から〈進行〉近藤さん(東予市)〈発表〉西川さん 山内さん(丹原町)

外から人が地域に入ってくる場合、そこで地域のコミュニケーションがしっかりとれているのかどうかが問題であろう。その辺、丹原町の場合はうまくいっている事例ではないだろうか。農業には色々な可能性があるが、結局扱うのは植物なり生きものである。それをきちんと見る目のある人がそれなりの所得を上げる事が出来るのである。今の農家は親から引き

丹原町は行政施策上主要な課題として、生活環境整備事業・土地基盤整備事業等を実施し、特に山間地域においては山村振興事業を組み入れ、過疎対策に取り組んできたが、特効的な効果もなく過疎化が進行している。

人口の推移は、昭和五十年から六十年の間で微減傾向ではあるが、このままでは過疎化がさらに進行すると思われる。現状を開拓するた

継いだモノばかりで満足していく向上心に欠けている。そういうところから作る楽しみがなくなり、消費者とのコミュニケーションも少くなり、農業が廃ってきたのではないだろうか。

若者塾の活動の中から、自分達の地域をもう一度見つめなおしてみると、普段気の付かないことに気が付いた。弱者の目から見て、今まで地域に住んでいながら、地域の良さに気付いていなかつたのではないか。真実の、生きがいのある暮らしはどういう生活をいうのだろうか。今、考え直す必要があるだろう。

◇第三分科会

『それでも…、

番町校区が好き!』

大街道・銀天街住人からの報告

【松山市の概要と現状から…】

商店街は地域の顔であると言われる。即ち「商店街づくり」は「まちづくり」である。昭和三十年代後半からの高度経済成長時

に全国的主要都市で、産業基盤を中心とした社会基盤の整備が進められた。松山市の商店街もそのうねりの中で大きな影響を受け変化していった。昭和三十七年には銀天街にアーケードが完成し、昭和四十六年には「まつちかタウン」や「いよてつそごう」がオープン。昭和五十七年には大街道アーケードが完成している。物的施設が次々と近代化されていったことにより、湊町、大街道をとりまく番町校区の歴史・生活文化やアメリカの環境要因はどう変化していったのか。外部環境の変化に起因する中心市街地の生活環境や、中心商店街の問題点は?。

【松山市は今…】

非日常性を体験したくて人が松

山に集まるのだが、しかしそこにはコミュニティとか人のふれあいが感じられないで極端な夜間

人口の減少(ドーナツ現象)が起きつてくるのではないか。商店街は界隈性を持つエキサイティングなまちづくりが必要である。

過疎化を計る時、それは「物差

し」で見る事は出来ない。都市が過疎化しても、そこにコミュニティーションがなくとも、都市は人々にとつてすごく都合のよい場所でなくてはならないのだから。

都市での生活・暮らしの中で旧世代の都市住民達とのギャップを埋める意味でも、顔が見える「まち」を造るために、様々な問題に

ダイナミックに切り込んでゆく事が必要であろう。

何故なら、「過疎」は永遠の



第3分科会左から〈進行〉ヘロン久保田さん(松山市)
〈発表〉井門さん 佐々木さん(松山市)

■エピローグ

発想の原点を自分の立場だけを考えると、何も得ることは出来ない。この総会で「過疎問題」の研究報告をするための資料として、情報収集は勿論のこと各分科会で使用するビデオ・スライドの作成を行う過程の中で、それぞれの地域の「過疎」というものが分かってきたであろうし、私達はこれからどう生きなければならないのかという事も分かつてきただと思う。この誌面で全ての内容を紹介する事は出来なかつたが、研究会議会員等による研究活動の報告により、「過疎」の実態というものが少しないとも見えてきたような気がする。

この集会の様々な問題提起の中から、参加者がそれぞれ問題意識を地元に持ち帰つて、これから色々なドラマが展開されるのであるが、この問題に結論は出せないであろうし、出さなくても良いと思う。

“集まれ!『舞たうん』寄稿者”

ふるさと大好き
人間交流会

(財)愛媛県まちづくり総合センター



まちづくりセンターでは、去る一月十八日、「集まれ!『舞たうん』寄稿者」を題して「まちづくり研究サロン」を開催しました。

今回の集会には、東は川之江市から西の一本松町まで県下全域から、十名の女性をはじめ、地域・職域・人生域を異なる約五十名の方々が集まりました。都合によりご参加いただけなかつた寄稿者の方並びに読者の皆様に簡単に集会の模様を御報告します。

「芝居にいろいろなタイプの人間が必要なよう、まちづくりにも思う。そこに暮らす人たちの情熱が必要ではないか」(小林さん)

「芝居にいろいろなタイプの人間が必要なよう、まちづくりにも思う。そこに暮らす人たちの情熱が必要ではないか」(小林さん)

ふるさとには風が舞い風を求めて人が舞う

我ふるさと「舞たうん」

のまちやむらをそして、地域のコミュニティ、集落に何と思い入れのこもった活動をされていることか、改めて「まちづくり」の幅の広さと奥行きの深さをしみじみと痛感させられます。

今回の集会には、東は川之江市

から西の一本松町まで県下全域から、十名の女性をはじめ、地域・職域・人生域を異なる約五十名の方々が集まりました。都合によりご参加いただけなかつた寄稿者の方並びに読者の皆様に簡単に集会の模様を御報告します。

昭和六十二年十月、県下のまちづくり活動者のネットワーク誌として産声をあげた手づくり情報誌「舞たうん」は、昨年十二月の発行をもって二十六号を数えることになりました。これまでに、誌面にご登場いただいた方は二百二十名にのぼりますが、この寄稿者の方々こそが正に「舞たうん」そのものであります。再読すると、それぞれの方々が如何に自分たちのまちやむらをそして、地域のコミュニティ、集落に何と思い入れのこもった活動をされていることか、改めて「まちづくり」の幅の広さと奥行きの深さをしみじみと痛感させられます。

今回の集会には、東は川之江市から西の一本松町まで県下全域から、十名の女性をはじめ、地域・職域・人生域を異なる約五十名の方々が集まりました。都合によりご参加いただけなかつた寄稿者の方並びに読者の皆様に簡単に集会の模様を御報告します。

「芝居にいろいろなタイプの人間が必要なよう、まちづくりにも思う。そこに暮らす人たちの情熱が必要ではないか」(小林さん)

りが続き、会場の参加者から「舞たうん」は愛媛のファンづくりに大きく貢献しているとの叱咤激励

「いま、ふるさとはドラマティックに……」と題してのサロントークへ。司会進行によりサロントークへ。

クは、双海町の若松進一さん、南海放送ラジオでDJとしても活躍中のパーソナリティー小林真三さ

ん、広見町で演劇活動の傍ら月刊誌「ふるさと通信あいり」を発行している才色兼備の二宮美日さん

の三人を参加者が取り囲み、若松さんのリードよろしく、会場が一

体となつて笑いあり、質問ありのくつろいだ雰囲気のうちに進行。

「最近のイベントづくりには人間的な部分が欠如しているようになら、十名の女性をはじめ、地域・職域・人生域を異なる約五十名の方々が集まりました。都合によりご参加いただけなかつた寄稿者の方並びに読者の皆様に簡単に集会の模様を御報告します。

ふるさとには風が舞い風を求めて人が舞う

我ふるさと「舞たうん」

の展開方向を探っていくための集会ですが、参加しての価値は参加者自身がその人なりに掴んでいた「舞たうん」は愛媛のファンづくりに大きく貢献しているとの叱咤激励の言葉が。サロンの締めくくりは、

カザルス合奏団音楽監督として地域の室内音楽普及に様々な活動を繰り広げているチエリスト上田真二さん

の情熱的なチエロ独奏。

その余韻と興奮を残しつつ交流会へ。会うのは初めてという方が多い中で、ささやかな情報誌「舞たうん」の寄稿者という絆がそうさせるのか大いに盛り上がり、改めて「舞たうん」の素晴らしさを再認識した次第です。



事業者が運営している大規模な局、個人が運営している個性豊かな局、人等が運営している公共的な局や、

紹介されているセンター局には、下表で紹介します市町村や財団法人等が運営している公共的な局や、

センター局の様子や情報を閲覧できます。

紹介されているセンター局には、内市町村や財団専用のコーナーを設けることが可能です。ご希望があれば、ぜひ事務局（財）愛媛県まちづくり総合センターまでご相談下さい。

この電話帳はパソコン通信のセンターワーク（ホスト局）を紹介しているパソコン通信専用の電話帳です。全国に千数十局はあると言わ

れていて、センターワークの7～8割を網羅しています。この電話帳を見ながら面白そうなセンター局を見つけては、パソコンに電話番号を入力していると、瞬時に相手センター局のコンピュータにつながり、センター局の様子や情報を閲覧できます。

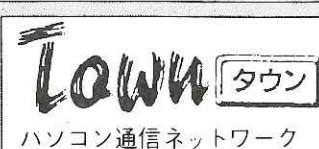
少々前置が長くなりましたが、これで、市町村や財団法人等が運営しているネットを紹介したのは、この記事を読んでいただいている市町村や財団の皆様に参加を呼びかけるためです。

当「TOWNタウン」では、県内の市町村や財団専用のコーナーを設けることが可能です。ご希望があれば、ぜひ事務局（財）愛媛県まちづくり総合センターまでご相談下さい。

「BBS電話帳」という電話帳をご存じですか。

この電話帳はパソコン通信のセンターワーク（ホスト局）を紹介しているパソコン通信専用の電話帳です。全国に千数十局はあると言わ

れています。各地のコンピュータと接続できる様は、まさに情報化時代を実感させます。



パソコン通信ネットワーク

拡げましょう ヒューマン ネットワーク

Vol.21

Human Communication & Network



えひめコンピューターコミュニケーションクラブ

ネット名(アクセス番号)	連絡先	運営目的
BIBOT-NET (01527-2-0320)	北海道網走郡美幌町字みどり253-4 美幌農業館・博物館	美幌農業館・博物館が運営する地域情報ライブラリー
オタル・ネット (0134-29-3256)	北海道小樽市花園2-12-1 市役所企画推進室	小樽の観光情報や市役所からのお知らせなどを行っている
HANGAN-NET (01464-7-2280)	北海道新冠郡新冠町字本町44 新冠町役場企画課	+1の行政をすすめるまち
盛岡市実験サービス (0196-25-8044)	岩手県盛岡市内丸12-2 市役所企画調査課	自治体の地域情報化施策のため、実験的システムとして運用
AGNESS (0224-24-4100)	宮城県白石市沢端町2-30 仙南地域グリーンピア推進協議会	全国の農林省グリーンピア指定地域の中で最も早くパソコン通信の実験事業を開始した
テレパーク・かづの (0186-22-1200)	秋田県鹿角市花輪字荒田4-1 市役所企画調整部	テレピア計画の一環として1987年9月から市直営で運用
科学館BBS PLANE-T (0286-59-5155)	栃木県宇都宮市西川田町567 県子ども総合科学館	科学館の展示案内や、イベントの情報などを提供している
渡良瀬ネット (0277-22-9800)	群馬県桐生市織姫町2-5 桐生地域地場産業振興センター	渡良瀬周辺の自然と文化をNETを通して伝えている
本庄ネット (0495-21-9900)	埼玉県本庄市銀座1-1-1 市役所内本庄ニューメディアコミュニケーション推進協議会	地域からの情報発信を目指して実験運用している
AV-PUB (03-3595-1297)	東京都港区虎ノ門1-17-1 (財)日本視聴覚教育協会	昭和63年に文部省助成事業として当協会が構築したネット
Wave-Net (0734-32-4740)	和歌山市小松原通1-1 県企画部情報システム課	県庁が運営するBBS、県の行事、市町村の統計や観光案内など
K-YUGO-NET (096-365-2141)	熊本市東町3-11 県工業技術センター	技術情報の普及と異業種技術交流プラザでの活動手段として使用
八代グリーンネット (0965-32-9709)	熊本県八代市松江城町1-54 八代農業改良普及所	普及所からの農業技術情報の提供・農業間の情報交換などを実行している
ピノキオセンター (0973-24-7903)	大分県日田市田島2-6-1 市役所総務課	日田地方の情報提供と、全国の会とのコミュニケーションの場を提供している
ほんちネット (0986-22-8585)	宮崎県都城市姫城町6-21 市役所内ほんちネット運営委員会	当ネットは都城市及び周辺7町の行政と民間の協力により、平成元年4月にスタートした。

第六回 地域づくり交流研修記

研修レポート

(財)愛媛県まちづくり総合センター

研究員 国田 敦彦
研究員 宇都宮 正昭



中馬街道うかれ横町にある道路を 跨ぐ渡り廊下のある家

日本大正村とは……

智町役場の小澤建男さん、それに橋本典明さん等が笑顔で迎えてくれていました。

大正口マン

石の村から大正口マン
漂うまちへ

お話を感動し、また、研修・交流会で重くなつた頭（酒のせい？）を抱えながら、翌十一月十四日、我ら十八名の精銳？たちは、次なる目的地明智町へ向かつた。乗物は国鉄解体後、廃線になり三セクターとして復活した明知鉄道である。

風カツドンを賞味。店内には、大正時代の女性や風物を描いた絵画が掲げられ、また机上には大正期に発刊された雑誌類が置かれ、窓はステンドグラスと、さながら大正時代にタイムスリップしたかの様であった。

生糸景気全盛の明治から大正期には生糸のまちとして栄え、女工さんを中心に入口が急増。しかし、社会経済の変遷と共に、生糸産業が衰退し、また林業の不振などにより過疎化が進行しました。その後、活性化のための諸施策がなされ今、住民主体の新しいまちづくりが進められている。

観光協会が講師として招いた文芸写真家沢田正春氏の提唱した「大正村」構想に基づき、昭和五十九年五月に「日本大正村」が立派し、昭和六十一年一月には村長

人付き、案内をし、行つた先々ではお茶の接待がなされ、大正村の人たちと訪れた人たちとのコミュニケーションを大事にしているのである。



「大正村資料館」



石畳の敷かれた「大正路地」

明智駅に降り立つと、「財団法人日本大正村」案内役のボランティアのお年寄り達と共に、今回お世話になる「財団法人日本大正村」専務理事の橋本泰明さん、明

明智町は、かつては旧の主要
街道、南北街道と中馬街道が交差
する宿場町として栄えた町である。

日本大正村開村までの歴史

観光協会が講師として招いた文芸作家沢田正春氏の提唱した「大正村」構想に基づき、昭和五十九年五月に「日本大正村」が立派し、昭和六十一年一月には村長

訪れた人たちとの
コミュニケーションを大事にしてい
るのである。

午後は大正村内にある施設を橋本（泰）さん等の案内で視察。

音楽を聴くことができる京都から移築した元カフェ「天久」。明治・大正から昭和初期にかけて子供たちが熱中した遊び道具や昔懐かしい素朴な玩具などを展示している「おもちゃ資料館」。昔の銀行の蔵庫を改造し、大正時代の柱時計や蓄音機（これらは全て借り物だそうである）、雑誌や写真などを収集展示している大正村の中心的施設「大正村資料館」。大正村に賛同して、名古屋から移り住んだ人が収集していた大正時代の美術品や日用雑貨などを展示している

「小川記念館」。明智町役場として使われていたが、現在は大正村役場として、休憩所や事務所に使われている「日本大正村役場」。

今なお、大正時代のたたずまいを色濃く残す「大正路地」など、明智町の人たちにとって、また、日本人にとって、古き良き時代であつた大正時代のロマンをたっぷり堪能した2時間であった。

この町を歩いていて、気付いたことは、まず道路や川にゴミや空缶が落ちていないことであった。

考え方というものは、



梅村さん

橋本(典)さん

視察の後、文化センターにて橋本(典)さんと恵南青年会議所の大正村設立の経緯、現在の姿、将来の展望や課題などについてレクチャー。

お話を伺って、大正村のまちづくりの

実践の場としての役割りを果たしているのである。今、盛んに生涯教育が叫ばれている中、明智町はまさにまちづくりと合体した生涯教育が実践されているのである。

また、明智町では高齢者対策など必要ないのではと思えるほど、生き生きとしたお年寄りの姿も印象的であった。

橋本(典)さんと梅村さんから、まさにまちづくりの関わりについて行っているのである。今、盛んに生涯教育が叫ばれている中、明智町はまさにまちづくりと合体した生涯教育が実践されているのである。

橋本(泰)さんと小澤さんから、まさにまちづくりの関わりについて行っているのである。今、盛んに生涯教育が叫ばれている中、明智町はまさにまちづくりと合体した生涯教育が実践されているのである。

橋本(泰)さんと小澤さんから、まさにまちづくりの関わりについて行っているのである。今、盛んに生涯教育が叫ばれている中、明智町はまさにまちづくりと合体した生涯教育が実践されているのである。

橋本(泰)さんと小澤さんから、まさにまちづくりの関わりについて行っているのである。今、盛んに生涯教育が叫ばれている中、明智町はまさにまちづくりと合体した生涯教育が実践されているのである。



橋本(泰)さん 西尾助役さん 小澤さん

午後、役場の前で橋本(泰)さん

とできない資金面や組織編成での裏話、苦労話など、本音の話を興味深く聞き入っていた。橋本(泰)さんの話を聞いていて「やろうと思えば何でも必ず出来るものだな」と思ったのは私だけではなかつたのではないだろうか。

飲むほどに酔い、酔うほどに話がはずみ、夜遅くまで大正村と愛媛との交流の輪はどんどんと広がつていった。

翌十五日は大正村内自由研修の

方たちが、とにかく町を美しくしようとして定期的にまちの清掃を行っているのである。今、盛んに生涯教育が叫ばれている中、明智町はまさにまちづくりと合体した生涯教育が実践されているのである。

橋本(泰)さんと小澤さんから、まさにまちづくりの関わりについて行っているのである。今、盛んに生涯教育が叫ばれている中、明智町はまさにまちづくりと合体した生涯教育が実践されているのである。

橋本(泰)さんと小澤さんから、まさにまちづくりの関わりについて行っているのである。今、盛んに生涯教育が叫ばれている中、明智町はまさにまちづくりと合体した生涯教育が実践されているのである。



橋本(泰)さん 西尾助役さん 小澤さん

午後、役場の前で橋本(泰)さん

とできない資金面や組織編成での裏話、苦労話など、本音の話を興味深く聞き入っていた。橋本(泰)さんの話を聞いていて「やろうと思えば何でも必ず出来るものだな」と思ったのは私だけではなかつたのではないだろうか。

飲むほどに酔い、酔うほどに話がはずみ、夜遅くまで大正村と愛媛との交流の輪はどんどんと広がつていった。

翌十五日は大正村内自由研修の



明智町役場前にてカンカン帽をかぶってパチリ！

名古屋市OZモールの巻

十一月十六日（土）快晴

いよいよ研修最終日。肉体的、精神的にもどっぷり疲れているにも拘らず研修疲れをモノともせず、

画期的な活性化策でもののみごとに蘇った名古屋市「大曾根商店街」を訪問した。

「OZONE」の頭2文字をとつて、「OZONEモール」の愛称で今、全国的にも注目されている所だ。

「アーケードがないわ！」

「おお！ ワンダフル！」

た休憩スペース、
アーケードのない
オープンスペース、
曲線を活かしたレン
ガの歩道などアメニ
ティ空間を堪能させ
てくれる。

平成元年、七十余
年の店舗を一斉移転し
て、全く新しい商業
空間が出来あがつた
のである。こんな素敵な商店街に
生まれ変わったのは、どんな背景

などOZモール入口にたたずみ驚
嘆。男女4人が手を差し伸べあう
彫像「どえりやあ門」を抜けると
異国の方を訪れたようなリッチな
気分にしてくれる。

ふと見上げると、各店舗の屋根
のデザインは三角形で統一され、
実際に楽しくシンボリックなイメー
ジである。そして水のせせらぎが
聞こえるゆったりし

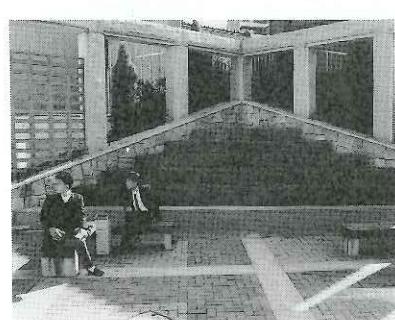
た」と啓蒙運動の重要性を再認識
させられたとのこと。

そして、「全国的に例
のない発想を総合力で
現実のモノとした」の
は、固定観念にとらわ
れない発想の転換と先
見力そして最終的には
決断力によるところ大
なのである。

「先代からの色々なしがらみがあ
る商店主を説得・調整するには、
忍耐力と熱意が一番大事」と柴田
さんは言われる。

OZモール完成までの道程は一
朝一夕でなかつたわけだ。地域環
境が違い、ハード的な部分を全
参考には出来るはずもないが、
根っここの部分すなわち教訓を理解
できた研修となつた。

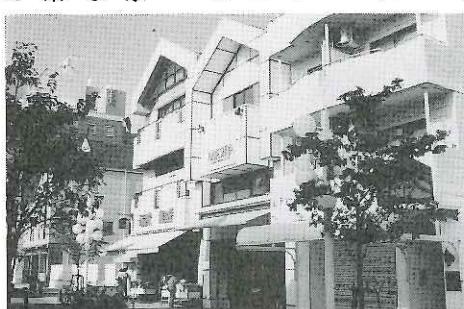
「あんな商店街でショッピング
してみたいなあ」と研修生はつ
ぶやきながら伊予路へ向かつた。



とかく、我田引水的
な考えが先行する世の中
で私利私欲を捨て店
主をリードしていくリーダー達
がいたのである。

OZモールの建設に尽力された
柴田副理事長から苦心惨憺のプロ
セス及び今後の課題等貴重なお話
を伺うことができた。

驚いたことに、まず勉強会を年
間に三十回も徹底的に実施された
のである。その結果として、「メン
バー同志の意思疎通がスムーズに
なり、最初の頃は文句の言い合い
に終始していたのに、共同してや
らねば…というムードになつてしま
た」と啓蒙運動の重要性を再認識
させられたとのこと。



「どえりやあ門」



柴田副理事長

小田川物語

一九九〇・一〇頃

志賀房雄・鎌田宏史—永訣の辞

「石狩川再訪」

一九九一・二・九

法師 福留脩文来町の辞

幼き日に「石狩川」を読みし

以後我が胸に灯る

若き日に「神威」に登る

渺茫と視界広く

蒼々と森深まれり

歳経りて石狩を訪ぬ

遙けき想い天空を走り

逝きし友の無念を想う



五十崎町

亀岡 徹

暖冬の影響で、早く
吹いた東からの風に、春
の花たちも慌てて蕾を開
かせているようです。
桜前線が待ちきれず、
日この頃、部屋の窓をお
もいつきり開けて、新し
い空気を入れてみません
か。

内容についてのご意見や活動内
容についての記事など、お気軽に
お寄せください。

「舞たうん」編集係

二人のM.s.（毛利・安田）まで
〒七九〇 松山市三番町八丁目
二三四番地

愛媛県生活保健ビル三階
(財)愛媛県まちづくり
総合センター

TEL

〇八九九(三二)七七五〇

FAX

〇八九九(三二)七七六〇

発行・平成四年一月十五日

(財)愛媛県まちづくり

えひめ地域づくり研究会議

